

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 8月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1072900648
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	尾島ケアハートガーデン グループホームさるびあ
所在地	太田市尾島町270 (電話) 0276-30-7171

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年7月23日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 14,250円/月
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	230 円	昼食 320 円
	夕食	530 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	78歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合太田病院、堀江病院、横室医院、飯塚歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三菱電機ライフサービス(株)が社会貢献の一環として、全国的にグループホームを運営すると共に、三菱ボランティア会を組織し、事務局長及び施設長はその一員として年末にはバザーを開催し金品を社会福祉施設に寄付している。また、お年寄りへの電気毛布等の無料配布や一人暮らし高齢者宅の枝下ろしを行うなど、地域との交流促進に努めている。事業所は、職員の定着率を高めるため手厚い処遇を行うと共に、県や市等が主催する各種研修会及び法人が実施する職位別研修会に参加し、研修内容を月次会議で発表し研修成果を職員に伝え、職員のレベルアップを図っている。また、介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得のために職場で実技研修や勉強会を行い、受験の際は有給休暇を付与し資格取得奨励金制度を創設する等、各種の便宜を供与し職員の資質向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である「理念を今以上に職員に知ってもらう」ことについては、理念を居間や玄関等に掲示し、日々の支援と理念との係わりを月次会議やケアプラン樹立時に話し合い、浸透を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>「評価ガイドブック」のコピーを全職員に配布し、月次会議で評価の意義や目的を理解している。自己評価は月次会議で話し合い振り返りを行い、事務局長と施設長がまとめ、職員は自己評価に目を通している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を奇数月の第3木曜日に開催し、事業内容や入居者の健康管理状況・介護保険の改正等について報告し、意見交換を行っている。委員の意見を取り入れ、地域の人々が集う「いきいきサロン」を事業所で開催したり、サツマイモをホーム菜園に植えて秋には地域の人々を招待したサツマイモ料理会を開催する予定である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に健康状態等を報告すると共に、海外や他県に住む家族にはメールで「お楽しみ食事会」等の行事写真を添えて日常の生活状況等を報告している。今後は「さるびあ通信」を定期的に発行し、入居者の暮らしぶり等を家族に伝える予定である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は自治会に加入し、新年会や祭りに協賛すると共に事業所主催の介護セミナーを行政センターで開催している。町内の人達が集う「いきいきサロン」に事業所の居間を提供したり、祇園祭やねぶた祭りを利用者と共に見物している。また、事務局長及び施設長は、三菱ボランティア会の一員として一人暮らし高齢者宅の枝下ろしや電気毛布の無料配布等に参加するなど地域の人々との交流促進に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	夜勤者を除き全職員が出席する月次会議(毎月第4木曜日開催)で理念の見直しを行い、『地域の中で「生きる喜び・生活する楽しみ」の芽生えを求め、「安心・安全・快適」に過ごし、「丁寧・親切・思いやり」の心で接する』を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月次会議やケアプラン樹立時に、理念に沿った支援について話し合いを行っている。住み慣れた地域で安心して生活するために、散歩時の挨拶励行、町内にある理美容院の利用や商店街での食材の買い物・祭りの見物等事業所から地域の人々に積極的に働きかけるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行政センターで事業所主催の介護セミナーを開催したり、町内の人達が集う「いきいきサロン」に事業所を提供している。また、祇園祭やねぶた祭りを入居者と共に見物したり、職員は三菱ボランティア会の一員として一人暮らし高齢者宅の枝下ろしや電気毛布の無料配布等に参加している。事業所は自治会に加入し、新年会や祭りに協賛するなど地域の人々との交流促進に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「評価ガイドブック」のコピーを全職員に配布し、月次会議で評価の意義や目的を理解している。自己評価は月次会議で話し合い振り返りを行い、事務局長と施設長がまとめ、職員は自己評価に目を通している。前回評価の改善課題である「理念を今以上に職員に知ってもらう」ことについては、理念を居間や玄関等に掲示し、日々の支援と理念との係わりを月次会議やケアプラン樹立時に話し合い、浸透を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を奇数月の第3木曜日に開催し、事業内容や入居者の健康管理状況・介護保険の改正等について報告し、意見交換を行っている。委員の意見を取り入れ、地域の人々が集う「いきいきサロン」を事業所の居間で開催したり、家庭菜園にさつまいもを植えて、秋には地域の人々を招待したさつまいも料理会を開催する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新手続きやスプリンクラーの設置、生活保護申請手続きの相談等に、入居者と共に市役所を訪れている。市役所主催の研修会に参加するなど機会ある毎に連携を持ちサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態等を報告すると共に、海外や他県に住む家族にはメールで「お楽しみ食事会」等の行事写真を添えて報告している。今後は、「サルビア通信」を定期的に発行する予定である。金銭管理は預り金処理を行い、月毎に個人別金銭出納帳のコピーを利用料請求書に同封し精算すると共に、面会時に確認して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱や相談窓口について、契約時に家族に説明している。心配する家族の不安な気持ちを解消するよう、また、意見や苦情等を言いづらい家族の立場に配慮し、家族とは本音で付き合うよう職員を指導している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率を高めるため総て正規職員として採用し、給料や諸手当等の処遇面で配慮し、過去3年間の退職者は1名である。新規採用職員には、基礎研修等の職場内研修を実施している。また、フェースシートで入居者の性格等を知ってもらい、勤務中はリーダーがマンツーマンで指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の実務者研修等を受講し、報告書を作成し月次会議で発表している。法人が運営する全国13箇所のグループホームの施設長・リーダー・スタッフ研修会が開催され、出席している。また、介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得を奨励し、時間外に解答指導や実技指導、受験の際の有給休暇付与、資格取得奨励金制度等各種の便宜供与を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、大会における事例発表を聞いたり、各種研修会に参加している。協議会が主催する職員相互派遣研修での受入れはしているが、事業所職員の派遣は行っていない。	○	職員相互派遣研修に事業所職員も参加し、職員の資質向上とサービスの質の向上を図られるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に生活歴や病歴等を調査し、3日以内の「入居お試し」を行い、家族が共に宿泊する等家族にも事業所の雰囲気を知ってもらい、理念の「安心・安全」を体験して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	うどん打ちを教えてもらったり、家庭菜園の栽培管理や食事の準備を共に行うなど、長い人生を過ごしてきた先輩として慕いながら共に支え合う気持ちを大切にしたりした支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向や希望を、入居者別に毎年記録している。意思表示のできない入居者は、表情等から汲み取り、「できることできないことシート」を活用するなど入居者の意向等を大切にしたりした支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族の意向や希望を聞き、「できることできないことシート」で入居者の思いや課題を把握し、職員全員で話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月毎の見直しであるが、身体状況等の変化に対応し随時見直しを行っている。見直しに当たっては職員全員の意見を聞き、市内在住の家族には計画を提示し意見があればその場で検討し、署名捺印を頂いている。海外や県外の家族には、メールで計画を送り意見を聴取している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院の送迎を行ったり、選挙の投票に職員が同行したり、受診の際は職員が家族に同行するなど柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の事業所協力医が第1木曜日に往診し、全入居者の健康管理を行っている。かかりつけ医に受診の際も職員が家族に同行して、バイタルチェック表や介護サマリー(介護の要約)のコピーを持参し、適切な診療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関わる指針」を家族に説明し、家族の意向により、協力医や訪問看護師と緊密な連携を図り、重度化や終末期に向けた支援に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導や介助は、排泄の間隔やサインを注視し、耳の遠い入居には筆談でトイレ誘導を行うなど、入居者の誇りや尊厳を守り自立を促す生活に配慮している。記録書類は書庫に保管し、記録は居間のテーブルで行うが入居者に名前等が分からないよう配慮して行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に仕事をしていないと不安な入居者には、機械部品(模造品)の箱詰めや割り箸の紙袋入れをしてもらっている。また、洗濯物干しやテーブル拭きを手伝ったり、3時のレクリエーションの時間に別なことをしたり、夕食時に晩酌をする等一人ひとりの思いを大切にした支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成した献立に、入居者の希望を取り入れて作成している。調理や盛り付け、下膳を職員と共に行い、職員も同じテーブルを囲み食事をとっている。生活の中で最高の楽しみが食事であると、月1度のお楽しみ食事会や行事食を実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴を原則としているが、浴槽には毎日お湯が入れられ、失禁時等には入浴対応しており、入居者の希望により何時でも入浴できる体制にある。また、ゆず湯や菖蒲湯・りんご湯等季節に合わせて入浴を楽しむことができるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や盛り付けの手伝い、家庭菜園の栽培管理や収穫を職員と共に行っている。訪れる友人とお茶を飲んだり、カラオケを楽しむなど日々生き甲斐を持って楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩で公園のブランコや滑り台を楽しんだり、市役所の用事や食材の買い物に入居者が同行したりしている。また、初詣や藤の花見等のドライブなど機会を捉えて戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠を除き、日中は鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害緊急通報マニュアルや消防計画が作成され、年2回の消火避難訓練が行われている。夜間想定避難訓練では毛布やタオルケットに入居者を乗せた避難訓練や近隣の人に大声を出して協力を依頼する訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を基本に調理し、食事・バイタル・排泄チェック表に食事摂取割合と水分摂取量が記録されている。特に水分摂取は、毎食時と10時・15時及び体操後と入浴後に全入居者が行き、水分補給は特に意を用いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりにプランターの花が置かれ、玄関や居間に絵画が飾られている。二重ガラス窓や床暖房が施され、トイレや浴室の入口等には色別のシートを貼るなど工夫されている。掘り炬燵の和室や居間にソファが随所に配置され、入居者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のドア脇に飾り窓が作られ、入居者の手作り品や花が活かされている。居室には仏壇や家具が持ち込まれ、化粧水等が置かれるなど、その人らしく過ごせるような居室となっている。		